

●人物研究の基本ツール●

# 吉村 昭

〈人物書誌大系41〉



9784816922404

吉村 昭 よしむら・あきら 小説家 1927~2006

1950年学習院大学に入り、同人誌「赤絵」に拠り小説を書き始める。1953年大学を中退し、同人誌の仲間だった小説家の津村節子と結婚。丹羽文雄主宰の「文学者」などに所属して小説を書き続ける。1966年に戦艦武蔵の沈没までを客観的に綴った「戦艦武蔵」を発表。太宰治賞受賞作「星への旅」のような“死”の問題を扱った繊細な作品に加えて、重厚な記録文学という全く方向の違う2つの傾向の作品を書くことの出来る作家として、文壇での地位を確立した。やがて歴史小説に進み、「破獄」「桜田門外ノ変」など、フィクションを排して誠実に史実を追うというスタイルで、独自の歴史小説を構築した。没後も出生地で記念文学館設立が進められている他、岩波書店より「吉村昭歴史小説集成」が刊行されるなど、その人気は衰えを知らない。

木村 暢男 編 A5・470頁 定価(本体18,200円+税) ISBN978-4-8169-2240-4 2010年3月刊行

## 生涯と全業績及び人物像がわかる決定版!

- 生前、吉村昭本人も自筆年譜改訂の際に参考にした「吉村昭年譜」(私家版)をもとに編纂された本格的な個人書誌です。
- 年譜・全著作(単行本未収録の作品や少年小説なども含む)・対談・インタビュー及び、吉村昭とその作品についての研究文献・批評・記事・文庫解説など約4,380件を収録。全著作の初出・収録書籍などを一覧できます。参考文献には簡単な内容紹介も記載しました。
- 妻・津村節子さんにより選定された写真と、序文を掲載。また、他では読めない追悼文も収録しています。
- 作品名から「著書・作品」「書評・関連記事」を引ける索引付き。

### 【目次】

年譜の重み	津村節子
I 生涯と業績	
II 著書・作品	
III 座談・対談・インタビュー・その他	
IV 書評・関連記事	
V 文庫解説	
追悼編	
(大河内 昭爾、大村 彦次郎、 高井 有一、中村 稔 四氏の弔辞)	
索引	
あとがきに代えて	木村暢男

### 編者プロフィール

木村 暢男 きむら・のぶお 吉村昭研究会会長  
1937年大阪府出身。1963年大阪外国語大学イスパニヤ語学科(現・大阪大学)卒業。近畿日本ツーリストに勤務。定年後、吉村昭に関する資料・著作の整理・研究を本格的に始める。2000年より2006年まで、「吉村昭年譜」を毎年増補・改訂し、私家版で発行。

### 序文より

### 年譜の重み 津村 節子

夫、吉村昭は、木村暢男氏が編まれた年譜が送られてきた時、初めは気味悪がっていた。(中略)新聞・雑誌での対談・鼎談・座談会のテーマや出席者、ラジオ・テレビ出演の折のテーマや聞き手、文芸作品の書評、殆ど人目に触れることが少ない地方の小さなタウン誌や、企業のPR誌などに書いたエッセイや対談、業界主催の講演会など、本人が全く忘れてしまっているものまで拾い上げられていて、その克明、詳細、正確なことに驚いていた。(中略)この人は本気で自分のことを記録に遺すつもりらしい、と吉村は感謝の気持を抱くようになった。

2020.6

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845  
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■書店名	注文書	吉村 昭 〈人物書誌大系41〉	
		定価(本体18,200円+税) ISBN978-4-8169-2240-4	冊
		■お名前	冊

I 生涯と業績

昭和40(1965)年 38歳

- 会社の仕事に専念。激務のため夜遅い帰宅がつづき、創作意欲は減退。
- 7月、妻・津村節子「玩具」で第53回芥川賞受賞。
- 8月末、兄の会社を退職。
- 9月、三陸海岸に一人旅をして再び創作意欲を取り戻し、この旅が刺激になって「星への旅」を書く。
- ▷「刑務所通い」を「円卓」5月号に発表。

昭和41(1966)年 39歳

- 長崎に一週間滞在して、戦艦「武蔵」の建造について調査。
- 6月、「星への旅」が第二回太宰治賞を受賞。ついで長篇「戦艦武蔵」が「新潮」9月号に一挙掲載され、ようやく文筆生活をする自信めいたものをいさぐ。
- 9月、戦艦「武蔵」の建造技師、乗組員たち31名を目白の椿山荘に招き、懇談会を開く。
- ▷「戦艦「武蔵」取材日記」を「プロモート」20号より5回連載。
- ▷「小説と私」を「文学者」3月号「キトク」を「風景」7月号「星への旅」を「展望」8月号に発表。
- ▷8月、短篇集『星への旅』を筑摩書房より発表。
- ▷9月、「戦艦武蔵」を新潮社より発表。

昭和42(1967)年 40歳

- 復帰前の沖縄に鹿児島から船で訪れ、足跡を歩きまわり、八十余名の戦艦乗組員と対面。
- この頃から原稿依頼が増し、単行本『水』を「展望」1月号、「術」秋季号、「殉国」を「展望」1月号に発表。
- ▷「大本営が震えた日」を「週刊新潮」3月号、短篇集『水の葬列』を筑摩書房より発表。
- ▷6月、「高熱隧道」を新潮社より発表。
- ▷10月、『殉国』を筑摩書房より発表。

昭和43(1968)年 41歳

- 戦史小説の証言者と会うための取材のため、南アフリカに17日間滞在し、ロンボークの手術の執刀医等に会い、資料を収集。
- 9月、心臓移植調査のため初め世界初の心臓移植手術を執刀し、移植患者その他の関係者の証言を聞き取る。
- 南アには17日間滞在し、ロンボークの手術の執刀医等に会い、資料を収集。
- ▷「海の奇蹟」を「潮」1月号に発表。
- ▷「零式戦闘機」を「小説新潮」1月号に発表。
- ▷「日本医家伝」を「CREATA」1月号に発表。
- ▷7月、「零式戦闘機」を新潮社より発表。

「I 生涯と業績」では、年毎に身辺・社会の出来事と主要著書を掲載

II 著書・作品

- 101 『戦艦武蔵』
- ◎S41.9 「新潮」
  - ◎S41.9 新潮社
  - \* S43.10 新潮小説文庫
  - \* S45? 石原プロにより映画化を企画、シナリオまでできたが実現しなかった(No.215 参照)
  - \* S46.8 新潮文庫
  - \* S48.12 『戦艦武蔵』、『関東大震災』などドキュメンタリー作品により第21回菊池寛賞受賞
  - \* S55.3 『新潮現代文学』66 新潮社
  - \* S62.6 新潮文庫改版
  - \* H2.11 『吉村昭自選作品集』2 新潮社
  - \* H3.10 英訳 “Build The Musashi” Kodansha International
  - \* H7.12 『CD-ROM 版 新潮文庫の100冊』に収録
  - \* H11.7 前記 “Build The Musashi” の普及版を “Battleship Musashi” と改題出版
  - \* H14 ポーランド語訳 “Pancernik Musashi” Oficyna Wydawnicza FINNA
- 102 《随想》果物と軍艦
- ◎S41.9 「文学者」
- 103 釣糸
- ◎S41.9 「栄養と料理」
  - ◎S54.9 『蟹の縦ばい』毎日新聞社
  - \* H5.7 『蟹の縦ばい』中公文庫

IV 書評・関連記事

- 67 文芸時評〈下〉
- ◎S41.8.26 「朝日新聞」夕刊
  - \* 江藤 淳⇒『戦艦武蔵』
  - \* H1.11 『全文芸時評』上巻 江藤 淳著 新潮社
- 68 文芸時評 入念に書かれた吉村氏「戦艦武蔵」
- ◎S41.8.29 「東京新聞」夕刊
  - \* 本多秋五
- 69 文芸時評 記録のきびしさ かわいた筆致「戦艦武蔵」
- ◎S41.8.30 「読売新聞」夕刊
  - \* 山本健吉
- 70 九月の小説
- ◎S41.8.31 「毎日新聞」
  - \* 平野 謙⇒『戦艦武蔵』
- 71 作家の眼 危機
- ◎S41.9 「新潮」
  - \* 津村節子⇒芥川賞受賞前後の夫妻の文学活動と評

V 文庫解説

- 1 ◎S46.8 『戦艦武蔵』新潮文庫 ◎磯田光一 ◎S41.9 新潮社
- \* S62.6 新潮文庫改版も同一解説
- 2 ◎S47.8 『殉国』角川文庫 ◎荒 正人 ◎S42.10 筑摩書房
- 3 ◎S47.12 『神々の沈黙』角川文庫 ◎上田三四二 ◎S44.12 朝日新聞社
- 4 ◎S48.4 『青い骨』角川文庫 ◎宗 左近「解説ない骨のたくましき一吉村昭世界管見」◎S33.2 小壺天書房
- \* 収録作品: 単行本と一部異なる
- 5 ◎S49.2 『星への旅』新潮文庫 ◎磯田光一 ◎S41.8 筑摩書房
- \* 収録作品: 単行本と一部異なる

「II 著書・作品」では、著書・作品名、初出、収録本に加え、海外出版の翻訳データも記載

「IV 書評・関連記事」では、タイトル、執筆者などのほか、簡単な内容紹介も掲載

「V 文庫解説」では、文庫タイトル、解説者、解説タイトルを記載